

## 南極観測隊樺太犬の追悼記

誌名	日本獣医師会雑誌 = Journal of the Japan Veterinary Medical Association
ISSN	04466454
巻/号	348
掲載ページ	p. 395-398
発行年月	1981年8月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 南極観測隊樺太犬の追悼記(II)

中村良一\*

### 3. 観測隊樺太犬の動向と顛末

観測隊に同行した樺太犬は、ソリ犬 20 頭と出発時雌の幼犬 2 頭を加え、計 22 頭であった。これらの犬に、航海中また基地越冬中にいかなる変化があったかは注目すべき問題で、著者は諸報告の記載から諸件を拾って綴り合わせてまとめた。その状況は、表 4 に示すとおりである。

#### 1) 樺太犬の輸送

樺太犬はまず稚内駅から貨車によって秋葉原駅に達し、ついで青海埠頭にいたり、観測船宗谷の犬専用の船室に積み込まれた。

宗谷は観測隊員と樺太犬を乗せて、昭和 31 年 11 月 8 日に東京港を出港し、32 年 1 月 10 日に南極リュッツホルム湾の海氷上に上陸した。そして越冬観測資材の却下作業が行なわれ、宗谷は 32 年 2 月 15 日正午、西堀越冬隊長以下 11 名の隊員を残して離氷し、帰国の途についたと記述されている<sup>1)</sup>。

次に船舶輸送衛生の参考として、小林氏の航海中の記録<sup>2)</sup>の概要を紹介すると次のとおりである。

表 4 南極観測隊樺太犬の動向

区分	越冬隊	樺太犬
東京 ⇕ 基地	昭. 31. 11. 8 東京港出港	No. 8 往路船内死(心臓疾患)
	32. 1. 10 南極着	No. 10 越冬せず帰国
	32. 2. 15 宗谷離氷→帰国	No. 22 船内骨折, 帰国
第 一 次	昭. 32. 1. 10 上陸 基地建設	No. 4 調査旅行帰途失踪, 行方不明(32. 9. 4)
	越冬観測	No. 15 死亡(死因不明)(32. 12. 11)
	33. 2. 24 撤収	No. 18 死亡(腎疾患)(32. 8. 15)
		No. 21 越冬中 8 頭出産, 一次隊撤収時救出, 母子とも帰国(33. 2. 24)
第 二 次	一次隊と交代不能 ↓ 一次隊と共に帰国	基地開設不能 ↓ 犬放置(15頭)

\* 日本獣医畜産大学名誉教授(東京都板橋区東新町 1-4-13)

第 三 次	昭. 34. 1. 25 基地到着 観測作業再開	生存: No. 11(ジロ), No. 12(タロ) けい留餓死: No. 2, 6, 7, 13, 14, 16, 20 行方不明: No. 1, 3, 5, 9, 17, 19
	第四次	No. 11(ジロ)死亡(死因不明)(35. 7. 25) No. 12(タロ)生存
第五 次		No. 12 帰国(36. 4. 20) ↓ [45. 8. 11 死亡(老衰, 腫瘍)]

犬の船室は宗谷の右舷にもうけられ、天井の半分は前甲板の下にあり、犬の檻は図 7 のように区画され、戸口には 2 台のルームクーラーが設置された。犬檻の上は板張りで、必要な資材および飼料が積み込まれた。

犬船室の入口、奥、前室には乾湿温度計をさげ、朝・昼・夕の 3 回測定して記録された。また犬は航海中は船の後部のヘリコプターデッキにつながれ、荒天時、デッキ使用時以外は大気の中で軽運動ができたようである。

そして航海中の飼料は、携行したドッグフードが大部分であったが、他にドッグミール、ペミカン、ミガキニン、乾鰯等を与え、また寄港地では冷凍した牛肉やサメ肉等を購入して与え、体重は 32.2~34.5kg を維持したようである。ただ、犬船室には給排水の設備がなく、船内の掃除には相当苦労したとのことである。

ちなみに参考のため、犬船室の概要を図 7 に、また小林氏が航海中に測定した船室内の温度を表 5 に、それぞれ示した。

表 5 航海中の犬船室の温度(℃, 小林)

測定時期	前室	入口	奥	外気
東京出港時(11月2日~8日)	•	17.4	18.8	•
東京~シンガポール (11月9日~27日)	33.2	24.4	26.0	27.4
シンガポール~南緯15° (11月28日~12月8日)	29.4	24.1	27.2	29.8
南緯15°~ケープタウン (12月9日~18日)	27.0	19.5	22.5	21.9

#### 2) 航海中の犬の事故

上述のような船内環境で荒波にもまれつつ、約 50 日の航海が続けられたのであるが、この間次のような事故犬の発生が記録されている<sup>3,4)</sup>。

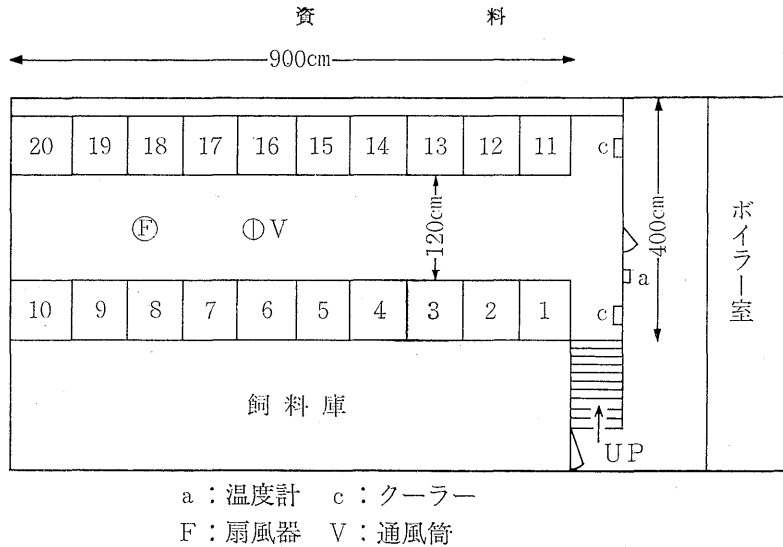


図7 犬 船 室 平 面 略 図 (小林 年氏)

No. 8 モク…往路船内で心臓病で死亡した。

No. 10 トム…越冬せず帰国後、朝日新聞社村山氏に払い下げられた。

No. 22 ミネ…往路船内で骨折し、越冬し得ず帰国して払い下げられた。

これらの事故犬についての詳細な記録はなく、その状況は不明であるが、ソリ犬 20 頭中 18 頭と雌子犬 1 頭の計 19 頭が南極大陸で越冬生活を行なうことになったわけである。

### 3) 越冬中の犬の事故

昭和基地の建設完了後、諸種の学術的観測調査活動が行なわれ、これには犬ソリの活躍が寄与したようであるが、越冬作業期間中次のような事故発生が記録されている<sup>3,8,10)</sup>。

No. 4 クマ(比布)…菊池氏ほか 2 名の隊員は、15 頭編成の犬ソリによって、昭和 32 年 8 月 30 日から 6 日間バダ島の偵察調査におもむいた。調査完了後オングル島基地に帰着する 8 km の地点で迎いの雪上車に移り、15 頭の犬は放した。この地点では、何回も犬ソリの運行を行なっているのに、犬達は迷わず基地に帰着するものと信じていたが、No. 4 のクマのみは 9 月 4 日に失踪して永遠に大陸に姿を消したとのことである。

No. 15 テツ…昭和 32 年 12 月 11 日死亡したが、死因についての記録はない。

No. 18 ベック…昭和 32 年 8 月 15 日、腎臓病で死亡したと記録されている。

No. 21 シロ…昭和 32 年 10 月 24 日、8 頭の子犬を出産した。すなわちシロは、出発時生後 3 月齢であったが、13 月齢で出産したことになる。父犬は不明である。すなわち第一次の越冬作業中、犬にとっては悲喜交々の事態が発生し、越冬終了時には成犬 16 頭、幼犬 8 頭、

計 24 頭であった。

### 4) 第一次越冬隊の撤収

昭和 33 年 2 月にいたり、第一次越冬隊は第二次越冬隊と交代して任務を引き継ぐことになり、樺太犬は 1 頭ずつ首に名札をつけ、それぞれ鎖に繋がれた。

そして、第二次越冬隊を乗せた宗谷は基地に到着しており、交代作業に入ったが気象状況が悪化して作業困難におちいった。よって第二次の観測事業は断念されることになり、第一次隊員、研究資材、樺太犬の順に航空機輸送によって宗谷に撤収された。そして子犬 8 頭と母犬(シロ)計 9 頭は救出されたが、その後は気象状況がさらに悪化して、航空機輸送も不能になったとのことである。

いっぽう輸送船宗谷では、食料や燃料等が余裕なく、氷海脱出不能な危険に迫り、15 頭の樺太犬は救出不能におちいった。かくして宗谷は、止むを得ずして犬達を昭和基地に繋留したまま、昭和 33 年 2 月 24 日帰国の途につき、同年 4 月に東京港へ帰着した。

### 5) 残留犬の顛末

昭和 33 年 2 月 24 日、鎖につながれて置き去りにされた 15 頭の樺太犬は、その後無人の昭和基地で彼ら自身で生を維持しなければならぬ状態に追い込まれたのである。そして彼らがいかなる生涯を送ったか、芳賀<sup>2)</sup>および戸尾<sup>20)</sup>の報告を参考としてまとめると表 4 に示すとおりである。

すなわち、第三次観測隊が昭和基地に到着したのは昭和 34 年 1 月 25 日と記録されているから、残留犬が人と再開したのは 335 日振りである。第三次隊が到着した時点の樺太犬は、繋留餓死 7 頭、行方不明 6 頭、生存 2 頭で、その状況は次のとおりである。

(1) 繋留餓死犬 7 頭は、首輪を装着したまま鎖に

つながれて死亡していた。いわゆる飢餓死で、その犬は表6に示した。

表6 繫 留 餓 死 犬

番 号	名 称	年 齢*	産 地
2	ク マ	3.5	紋 別
6	モ ク	3.0	一 己
7	ゴ ロ	3.0	稚 内
13	ベ ス	3.5	利 尻
14	ア カ	6.0	稚 内
16	ク ロ	4.5	鬼 脇
20	ポ チ	3.2	利 尻

\* 置き去りにされた時点の年齢

(2) 行方不明犬 6頭は、首輪抜きが巧みであったか、逃亡したものと思われる。基地付近には、なんら手がかりが得られなかった模様で、それらの犬は表7に示した。

表7 行 方 不 明 犬

番号	名 称	年 齢*	産 地
1	リ キ	6.5	近 文
3	ク マ	5.5	風 連
5	ア ン コ	3.0	苫 小 枚
9	デ リ ー	6.0	旭 川
17	ジャ ッ ク	4.5	利 尻
19	シ ロ	3.0	利 尻

\* 置き去りにされた時点の年齢

(3) 生存犬 生存していたのは No. 11 (ジロ) と No. 12 (タロ) の2頭で、ともに同腹の兄弟犬であるが、発見された当時はそれぞれ4才であった。いつ巧みに首輪抜きを行なったか不明であるが、第三次隊に発見された時点ではいずれも太っていたとのことである。したがって、335日間なんらかの食料源によって生命が維持されたようである。



図8 ありし日のジロ (芳賀報告より)



図9 ジロの剥製像 (国立科学博物館提供)

その後 No. 11 のジロは、第四次隊が越冬中の昭和35年7月25日、5才にして死亡したが、その詳細についての記録はない。その後死体は剥製にされ、現在上野の国立科学博物館に保存され、一般に供覧に付されている。

また No. 12 のタロは、第三～第五次越冬隊に貢献し、昭和36年4月20日、第五次越冬隊とともに帰国し、余生は北海道大学植物園内の博物館で飼育されていた。しかし老衰に加えるに病を得て、後述するごとく、昭和45年8月11日、満14年7月の生涯を閉じた。死体は剥製にされ、北大植物園の博物館に保存されている。

すなわち、2頭の生存犬は死亡したが、それぞれ剥製にされて保存され、南極行き樺太犬の代表として、その巧績が永久に後世に伝えられることになった。

ちなみに、巷間の諸記事には、犬名が「タロー」および「ジロー」とされているが、原犬籍には「タロ」および「ジロ」と記されているので、本稿では後者の犬名を用いた。

### 6) 樺太犬の銅像と供養塔

日本学術振興会南極地域観測後援特別委員会は、南極

樺太犬訓練記念碑

昭和三十一年、わが国が国際地球観測年の行事の一環として、南極地球観測に参加するにあたり北海道から集まった樺太犬三十数頭は、この地でソリの訓練を受けた。その中の代表二十二頭は観測隊員とともに遠く極地に渡り、昭和基地の建設にまた南極大陸内の調査探検にソリを曳いて立派にその使命を果たした。

ここに記念碑を建て、永久にその功績をたたえる。

昭和三十四年十一月(一九五九 一一)

日本学術振興会  
南極地域観測後援特別委員会

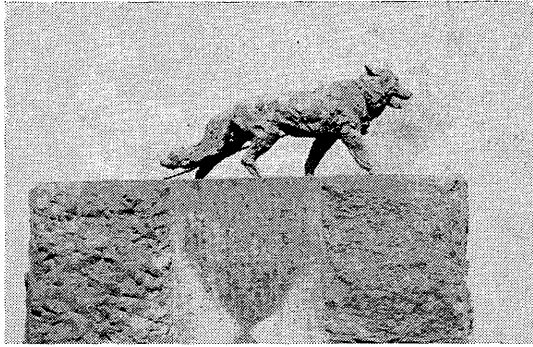


図10 樺太犬の銅像と記念碑（清水氏提供）

で活躍した樺太犬を永久にたたえるため、ゆかりの地、稚内公園に樺太犬の銅像を建て、記念碑には別記のような碑文が刻み込まれている。

この銅像のモデルは、第一次観測隊の撤収時に救出されたジロ（No. 21）の産子8頭のうちのボト号で、また銅像の製作者は芸術院会員、故加藤頭清氏とのことである<sup>4)</sup>。さらに稚内公園には、樺太犬の霊を慰めるため、供養塔も建てられている。

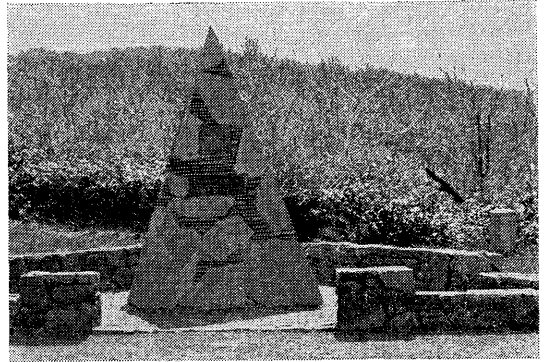


図11 樺太犬の供養塔（清水氏提供）

以上述べたように、われわれが南極へ送り出した樺太犬は、さまざまな条件のもとに、ほとんどのものが現地で生命を絶ち、最後まで活躍して故国に帰着したのは僅か1頭であった。

よって関係当事者は、樺太犬のゆかりの地稚内公園に銅像および供養塔を建て、ねんごろに供養してそれらの霊を慰めたものである。

（つづく）

## 地方会だより

### 埼玉県獣だより

#### 五十嵐会長 黄綬褒章受章

埼玉県獣医師会の五十嵐幸男会長（受章当時は副会長）は本年春の褒章で黄綬褒章を受章された。

五十嵐会長は、多年にわたり獣医・畜産業の発達につくされ、今回その功績が高く認められ褒章受章となったものであり、去る5月19日には農林水産省で行なわれた勲章授与式に出席され、さらに宮中で天皇陛下に拝謁、お言葉を頂戴された。今回の受章を心よりお喜び申し上げ、今後のより一層のご活躍をお祈り申し上げるところである。

（奥田）

### 奈良県獣だより

#### 奈良県獣医師会 社団法人として新発足

去る7月10日（金）午後1時より、奈良県農協会館において任意団体であった奈良県獣医師会の解散総会が開催され、出席会員全員の賛成を得て解散することを決議した。引き続き社団法人奈良県獣医師会の設立総会が会員126名出席のもと開催され、発起人代表の植村武

一氏より、「公益法人である獣医師会の必要性」について強調、挨拶を述べられたのち議事に入り、設立趣意書、定款、昭和56・57年度の2カ年間の事業計画ならびに予算、旧団体の奈良県獣医師会の資産などの引き継ぎの件、会費の額および徴集方法などについて審議検討した結果、すべての議案を原案通り可決・承認した。

また役員を選任については、役員推薦会議で理事・監事の候補者名簿を作成、議案として提出され異議なく満場一致で可決・承認された。

新会長の植村武一氏よりは就任挨拶があり、来賓の米田県畜産課長、東野環境衛生課長よりはご祝辞を頂戴した。

なお、社団法人としての認可は8月上旬、奈良県知事よりなされる予定。

新役員は以下のとおり。

会長（理事）：植村武一

副会長（理事）：石川淑夫 谷口謙治郎

理事：中川平八郎 西谷康信 久保益一 竹村弘  
村江保介 高橋良平 藤田英雄 北英雄 植田宏  
小山方玄 宗 武司 萩原 喬 中川敏彦 狭川雄作  
奥田正三

監事：高井忠美 西川律文 （石川）